

健康ぷらざ

No.297

企画:日本医師会

「目が充血している」「目がかゆい」 「緑内障と診断された」

目薬(点眼薬)を処方されたら、
こんなことに気を付けましょう。

目薬は直接目にさすため、飲み薬と異なる注意が必要です。
間違った使い方をすると

悪い影響が出ることがあることを覚えておきましょう。

目薬の1滴は約50μl、目の中に一時的にためられる量は30μl程度です。

たくさんさしても余分な目薬はあふれてしまい、

デリケートな目のまわりの皮膚をかぶれさせることもあります。

また目薬の一部は、鼻の粘膜から吸収されて、

全身的な副作用が出る場合もあります。

普通は1滴で十分な効果があります。

目薬は、いったん使いはじめると外の空気や汚れが容器の中に入って
不潔になることがあります。

容器の先を汚さないような扱い方が大切です。

目薬を使っていて、ぐろぐろしたり少しでも目がおかしいと思ったら、
かかりつけの医師を受診しましょう。

目薬の正しいさし方と主な注意点

- ①点眼前に手、とくに指先を石鹸でよく洗い、流水で洗い流す。
- ②もう一方の人差し指で下まぶたを引きながら、薬の容器の先端が目頭やまつげに触れないように点眼する。
- ③点眼後は約1分間静かにまぶたを閉じ、軽く目頭を押さえる。
(鼻の奥に流れ込むのを防ぐため)
- ④あふれ出た点眼薬はすぐに拭き取る。

- ※点眼は決められた1日の回数を守る。
- ※何種類も点眼する場合は5分ほど間隔をあける。
- ※保管方法・場所、使用期間の指示を守る。
- ※コンタクトレンズを使用している場合は医師に相談を。



指導: 山口大学大学院医学系研究科眼科学教授 西田 輝夫

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。